

## 会議結果（書面開催）

会議名	令和3年度 第1回印西市防災会議
通知発送日	令和3年9月27日（月）
協議期限	令和3年10月12日（火）
出席委員	内堀寿美男委員、笥 直樹委員、壹岐忠久委員、栗田 智委員、野田秀平委員、戸田 勝委員、杉山甚一委員、岩崎博司委員、小林正博委員、岡本一弘委員、土屋茂巳委員、富澤 実委員、酒井和広委員、櫻井 敦委員、笛田和人委員、高橋 清委員、大木 弘委員、豊田徳之委員、宮本 浩委員、石井順也委員、榊原真一委員、小山和恵委員、山内義実委員、秋山 茂委員、長谷川邦彦委員、江川香奈委員、乾 美知男委員、森本浩生委員、高橋満徳委員、山内延貴委員、野々村浩明委員、内山省吾委員
欠席委員	田村英記委員、境 麻千子委員、藤田裕介委員、齋藤武人委員、上條公司委員、志賀泰次郎委員
報告事項	印西市防災アセスメント調査結果概要
議題	（1）印西市地域防災計画等改訂の基本方針（案）について （2）今後のスケジュール（案）について
配布資料	報告資料1 印西市防災アセスメント調査結果概要 議題資料1 印西市地域防災計画等改訂の基本方針（案） 議題資料2 今後のスケジュール（案）
協議結果	書面により協議を実施した結果、原案のとおり承認された。

議御意見等

報告第1号

No.	御意見	回答
1	利根川、高崎川、手賀川・手賀沼の浸水範囲を示していただきたい。	浸水区域図を追加いたします。
2	P7 説明文と表の表記に差異がある。	ご指摘のとおり表現が異なっておりました。説明文のとおり表を修正いたします。
3	P7 表中No.9 印西警察署本榎村駐在所は「村」が不要ではないか。	表記の誤り申し訳ございませんでした。ご指摘のとおり「村」を削除いたします。
4	地震被害の予測に、利根川堤防等の被害予測は想定しているのか。	堤防そのものの被害は想定しておりません。
5	P5 鉄道の復旧で、北総線と成田空港線の日数の違いがあるが、その理由は。	北総線の既設区間である小室～印旛日本医大駅間と、成田空港線の 신설区間である印旛日本医大～成田湯川駅間で分けて想定を行ったためです。 小室～印旛日本医大駅間は2路線の線路共有区間であり、H24年度防災アセスメント調査では「北総線・京成成田空港線」としておりました。今回は「成田空港線（成田スカイアクセス線）」として、2路線を1項目にまとめるよう修正いたします。
6	P6 医療機能支障で、各地震ごとに「対応可能入院患者数」に違いがあるが、その理由と算出根拠は。	対応可能入院患者数は、建物被害想定結果を基にした、医療機関の施設の被害状況に加え、上水道及び電力の機能支障想定結果よりライフラインの途絶を考慮した値を算出しています。このため、地震により対応可能入院患者数に違いが生じます。
7	沖積層は洪積層より震度が高くなると言われているが、図では印旛沼周辺の沖積層が洪	ご指摘のとおり、一般的に沖積層の方が洪積層に比べて地盤は揺れやすくなります。 今回の防災アセスメントにおける印西市直下

	積層より低いのはなぜか。	<p>の地震は、市の西側で揺れがより強くなるような設定をしております。</p> <p>そのため、震源により近い洪積層で揺れが強く、ご指摘のような揺れの分布となっております。</p> <p>こちらは、印西市として被害がより大きくなるような想定を行い、対策を講じるということを意図しております。</p>
8	P7、P8 被害予測結果では、液状化しやすい沖積層にある施設でも極めて低いとされているが、なぜか。	<p>液状化の被害想定は、液状化が発生しうる地盤の存在と地下水位及び地震動の分布によって算定いたします。そのため、対象の地域に液状化が発生しやすい地質の層が少ない場合は、液状化危険度が低く算定されます。</p> <p>今回の被害想定では、地質情報やボーリングデータをもとに、市域を50mメッシュに区切り、それぞれのメッシュで地盤モデルを設定しております。</p>
9	印西市は高崎川に接していないのになぜあるか。印旛沼の水位が上昇するのであれば、印旛沼ではないか。	<p>ご指摘のとおり印旛沼の水位が上昇いたします。</p> <p>こちらは、千葉県が高崎川の洪水浸水想定として公表している想定結果をもとに調査を行っているため、表記を合わせました。</p>
10	P3 急傾斜地崩壊危険度予測13か所とあるが、内容は。	<p>千葉県被害想定で整理された急傾斜地崩壊危険箇所及び山腹崩壊危険地区を対象としています。内容は&lt;急傾斜地一覧表&gt;のとおりです。</p>
11	P4 上水道被害の予測結果として、断水人口を表で示したほうが良い。	<p>ご指摘のとおり表を追加します。</p>

議案第 1 号

No.	御意見	回答
1	<p>想定する地震を M から Mw へ変更する根拠は。</p>	<p>M (マグニチュード) と Mw (モーメントマグニチュード) はともに地震の規模を示す指標です。</p> <p>地震被害想定調査では、地震の規模を正しく把握し、地震の揺れ、液状化などを求める必要があります。</p> <p>規模の大きな地震を正確に把握するためには、地震による岩盤のずれの規模をもとに求める Mw の方がより適しています。</p> <p>また、近年の国や県の地震被害想定調査では M ではなく Mw で地震の規模を示すことが主流となっています。</p> <p>そのため、本調査においても、より正確な規模の表現と調査のため、Mw による手法を採用しました。</p>
2	<p>想定雨量を変更する根拠は。</p>	<p>平成 27 年に水防法が改正されたことにより、想定する雨量が「想定し得る最大規模の降雨」に変更になったため、この度の調査で採用しました。</p>

<急傾斜地一覽表>

項目	斜面 ID	箇所名	字名
急傾斜地崩壊 危険箇所	I -0327	安養寺	安養寺
	I -0328	浦部	浦部宮内
	I -0329	浦部 1	浦部宮内
	I -0330	宮内	浦部御手洗
	I -0331	三郷	松崎三郷
	I -0332	小林	小林窪地
	I -0333	大森	大森
	I -0334	武西 1	武西
	I -0335	武西 2	武西
	I -0336	和泉 1	和泉
	I -1291	戸神 1	戸神
	I -1292	松崎 3	松崎三郷
山腹崩壊危険地区	38	下沼	松虫